

The World Citizen

平成31年（令和元年）度 第2回学校評価保護者アンケートの結果と改善策について

今回のアンケートは、全校で634(前回681)人の保護者の方にご回答をいただきました。皆様のご協力に感謝申し上げます。アンケートの集計結果がまとまりましたので、お知らせいたします。お寄せいただいた貴重なご意見をもとに、今後の教育活動の工夫・改善に努めていきたいと考えております。在校生(生徒)の回答数も増加しましたが、後期生徒の回答が十分ではありません。次回からも家庭でも回答を促していただけると幸いです。

* 集計結果は、生徒・保護者の「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の合計割合(%)です。

評価項目		第2回集計結果		今後に向けての改善策
		前期	後期	
1	子どもは家庭や地域でも自分から進んであいさつをする。	86	87	「全ての基本は挨拶から」「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ力や意味を理解し、より多くの教師が生徒に声かけできるように、あらゆる場面で行う。
2	子どもは家庭や地域等で、学校での清掃活動の経験を生かしている。	65	62	相変わらず保護者評価が低い。自己評価も低下した。寒い時期の対策も必要と思われるので、生徒会環境委員会等の活性化で美化行動の向上を図りたい。
3	子どもは学校が好きである。	91	86	生徒が自身の可能性を広げることできる生活(学習)環境を整備し、成功体験を通して自己肯定感を高め、学校への誇りを持てるようにしていく。
4	子どもは英語や外国文化に興味がある。	91	84	現在の取組を継続しつつ、4技能に加えて5領域目(発表力・伝える力)を意識した授業を行い、生徒の知的興味関心を引きつける取組を実践していく。
5	イングリッシュキャンプやスピーチコンテスト、海外修学旅行などにより、子どもの国際コミュニケーション能力は高まっている。	90	85	より実践的で効果的な行事内容となるように、教科内・学年内で検討していきたい。
6	学校は、授業や学校行事を通じて我が国の文化・伝統に触れる機会を設けている。	90	87	FEWC人材育成ルーブリックによるカリキュラムマップを確認し、各教科ごとに日本及び世界の文化・伝統に関連した授業内容を充実させ、現在の好評価維持に努めたい。
7	子どもたちには、確かな学力身についている。	84	82	各教科で定期考査問題、課題内容等を検討し、授業アンケートの結果も踏まえ、一人一人の生徒の理解度を正しく把握し、個々の指導にフィードバックして改善に努めたい。
8	英語や数学の少人数学級は生徒の学力向上に効果がある。	93	93	現在の取組を常にチェックする目を持ち、形式的な指導に陥らないように、少人数指導のよりよい形を追求していく。
9	子どもは、自分なりの目標をもって学習に取り組んでいる。	82	86	SGH諸活動およびFEWCの成果をふまえ、全ての教科の中でSGHの目標を達成する学びを展開する「教科のSGH化」にむけた授業改善を進めていく。
10	子どもは、毎日家庭学習に取り組む習慣が身についている。	71	79	一人ひとりの生徒が関心をもち、自ら主体的に取り組む課題の課し方について、授業改善と関連させて全教科・学年で検討していく。
11	子どもの様子から、子どもは先生との信頼関係が築けている。	83	84	現在の取組を継続しつつ、生徒の言動に注視し、全職員で情報を共有する。「すべては生徒の成長(健全育成)のために」迅速かつ適切なタイミングで叱咤激励を行う。
12	学校生活を通して、子どもはクラスの友人とよりよい人間関係を築いている。	92	90	現在の取組を継続しつつ、互いの価値観を共有し、違いを認め合い、高め合える集団を目指していく。
13	子どもは自分の健康に留意して生活している。	80	79	後期生の評価が低い。家庭学習に伴う睡眠不足が影響しているのか。その原因究明を図り、改善策を見いだしたい。
14	子どもは、部活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる。	91	76	4年次以降の部活動加入率を低下させないための現在の取組を維持するとともに、委員会活動の活性化に向けた新たな取組を考えたい。
15	学校はいじめ防止に努め、いじめが発生した場合にも解消してくれた。	86	81	現在の取組を継続しつつ、いじめの定義やいじめ防止対策推進法等を周知徹底し、いじめの認知を積極的にこなしていく。その上で、いじめは「人の尊厳にかかわること」「人として絶対に許されない」「被害者は最後まで守りぬく」という基本姿勢を貫き、よりきめ細かい対応として生徒への面談等を実施し関係を密にしていく。
16	子どもは、自己を理解したうえで将来の職業を選択しようと考えている。	77	88	＜基礎期＞生徒一人ひとりが興味・関心を抱くテーマを自己認識し、自らの学習意欲を向上させる支援を行う。 ＜充実期＞生徒一人ひとりが自己の適性を認識し、将来の目標となりうる職業を意識する支援を行う。
17	子どもは、自分自身の進路に関する意識を有している。(後期課程のみ)		91	＜発展期＞文理選択や科目選択をふまえ、生徒一人ひとりが自己の学習計画を立案・実行する支援を行う。
18	子どもの進路希望を理解している。	79	92	年間計画に従い、2月に1、2年生生徒・保護者対象の進路講演会を実施する。
19	学校から、生徒・保護者に必要な進路情報の提供を受けている。	75	84	各学年通信に学力推移調査等の結果を掲載し、各家庭で保護者と生徒が進路に関して話し合うテーマを提供する。
20	進路講演会や進路関連行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	88	82	年間計画に従って3月に実施される全校の保護者を対象とするPTA進路学習会において、進路情報を提供する。
21	学校のwebページには、新しい情報が定期的に載っている。	88	84	Webページの更新回数を維持し、画像等を活用し、学校の行事や授業の様子等をタイムリーに情報発信し、情報を得ようとする側のニーズに応えられるWebページにしていく。
22	保護者向け学校行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	94	91	様々な機会を捉えてながら保護者のニーズに応えられる行事が企画できるように努力する。
23	学校は、適切に文書やメール等で連絡してくれる。	87	87	一斉メールのあり方を常に振り返りながら、必要な情報が過不足なく伝達出来るように引き続き努力していく。
24	学校はPTA(保護者)と連携し、奉仕活動などの地域活動を行っている。	83	74	これまでの取組を効果的に継続し、引き続き活動の実態を周知するよう努力する。
25	交通安全教室や防災避難訓練は子どもの安全意識向上に役立っている。	95	93	現在の取組を継続しつつ、「交通事故は命に関わることを」念頭に、より生徒が実感できる交通指導として本校のみならず県内の事故事例報告や傾向と対策を周知していく。
26	学校の施設・設備は整備され、安全である。	85	85	不審者侵入時の安全確保対応にやや課題が残った。来年度に向けて再検討し、改善を図りたい。

○第2回学校評価保護者アンケート自由記述欄への回答

多くの貴重なご意見やご提案をいただいております。ご協力いただき、ありがとうございました。その中で、主だった意見とその対応について報告いたします。少数意見の中にも全体につながる貴重な意見をいただいております。一つ一つ解決に向けて検討し、より良い学校運営に生かしてまいります。

○登下校に関わって

生徒達の登下校時に関わる安全は、学校も家庭も共通して心配していることと思います。

まずは、学校の北側の道路です。渋滞が発生し交通事故が起きてしまわないか心配しております。本校は自力登校をお願いしています。もちろん生徒が怪我等で通学困難な場合は、校舎内になるインターロッキングまで車を入れて頂き乗降をお願いしたいと思います。それ以外の場合はお迎えをする際には、学校の周辺はご遠慮頂き工夫して頂けると助かります。また、北側の道路は、明かりが少なく、夜になると真っ暗になってしまいます。そこで、ライトが点灯する時間を20時まで延長することとしました。

また、昨年度と本年度にヘルメットを着用している人数を数えたことがあります。もちろん前期生は全員着用です。後期生は、徐々に人数は増えている傾向にあります。学校の方では、義務では無いけれども推奨しております。ただ急速な変化には抵抗感もありますので生徒の心境を見つめながら今後とも命を守る指導を続けていきます。

○勉強面について

本校は、6年間を見通した教育課程を編成しています。つまり、本校の教員は6年間を見通して授業を行っております。そして、全国の名だたる進学校や伝統校は勉強だけに特化していないことも知っておいて頂きたいことです。生徒達は、知徳体などのバランスの中で生き生きと生活できると考えております。保護者の方々にお願いしたいことは、生徒同士、保護者同士の中に競争よりも協同意識を抱いて頂きたいと考えております。同じ仲間として高め合い協力し合いながら一人一人の門出である卒業というゴールを目指したいと考えております。

また、本校の教員は、できる限り一人一人の生徒に応じた対応を行っていると考えております。もし、一人一人の生徒への対応で、行き違いやご心配がありましたらその度にご対応したいと考えておりますので学校の方にご相談ください。特に、本人が大きなストレスを抱える場合は、宿題や課題についても相談ができますので、担任にご連絡ください。

○女子生徒の制服・スラックスについて

生徒の評議会からの発議があり、近隣の高等学校の状況、時代や社会の変化に応じて、学校では教員の中で制服検討委員会を編成し協議を始めたところです。来年度の1学期までを目標として女子用のスラックスを導入したいと考えております。また、黒タイツについては、過去何度か評議会で話し合われましたが、生徒の総意が、その都度見送りとなっていたことを一言申し添えます。

○前期生と後期生のつながりについて

中等の卒業生に話をする機会がありますとほとんど全ての生徒が中等は好きだと応えてくれます。6年間の生活の中で心身ともに成長する活動を仲間とともに過ごしたことが愛校心を育むのだと思います。その活動の中には授業を中心とした同年齢の活動とともに、部活動、体育祭、文化祭、明石プロジェクト、FEWC(総合的な学習の時間・総合的な探究の時間)、委員会活動、生徒会活動などの様々な異年齢の活動もあります。ただ、同年齢の活動に比べて異年齢の活動に入るためには少しの積極性が必要です。お子様に異年齢の仲間をつくりたいと感じておりましたら保護者の皆様に励まして頂くとともに担任にもご相談ください。きっとチャンスはあると思います。

ご協力ありがとうございました。